

ポイント



- ① 町内複数個所での試験栽培を通じて、栽培環境の違いによる生育差を確認
- ② 商圈規模等から、事業実現には複数販路の組合せが必要であることを確認
- ③ 未利用地を活用したブルーベリー農園の事業化に向けて、次年度も検討を継続することを決定

＜令和6年度の取組成果＞

- 観光を軸としたブルーベリー農園の事業化を検討する町内事業者を対象としたワークショップの実施と、町内事業者による試験栽培を開始し、町内事業者がブルーベリー農園事業に関する知見を獲得。
- ワークショップと試験栽培の監修を契機に、町内事業者とブルーベリー農園事業者との連携体制を構築。
- 試験栽培の植樹式・プレスリリースを通じて、新産業創出と未利用地活用に向けた取組を町内外に周知。

＜今年度（令和7年度）の取組成果＞

- 町内5個所で実施した同一育成方法による試験栽培にて、町内事業者の基本的なブルーベリー栽培技術の知見獲得と、町方地区未利用地における育成方法の課題把握。
- ワークショップでのブルーベリー農園の事業化に向けた事業計画案の作成と事業実現に向けた課題の明確化。
- 未利用地を活用したブルーベリー農園の実現に向けたアクションプランの策定。

＜今後の方向性＞

- 栽培環境に合った育成方法の確立のため、町内事業者によるブルーベリーの試験栽培を継続。
- 直売・加工等、観光以外の販路を模索し、複数の販路を組み合わせた事業計画を町内事業者が策定。

所在地：岩手県大槌町

主な用途：ブルーベリー農園及び附随施設（飲食店、販売店等）

■ 位置図



1. 目的と背景

町中心部の未利用地活用にあたり、新たな産業を誘致することで、若年層にとって魅力ある就労や活動の場を創出

- ・ 町中心部である町方地区には未利用地が残っている。住宅建設や企業進出の活動が減少する中、移住定住促進や関係人口増加の重要な要素である若年層にとって魅力ある新たな就労や活動の場の創出が急務。
- ・ 過年度より町方地区で新たな産業として検討が進むブルーベリー農園事業の本格的な事業化に向けて、専門講師（ブルーベリー農園事業者）の指導の下で実施する試験栽培による栽培可否の検証及び、ワークショップを通じた観光を軸としたブルーベリー農園として事業化した場合の事業計画の策定を行う。



対象地区 航空写真
(町方地区)

町方地区震災復興
土地区画整理事業
区域

試験栽培用地1
(町有地未利用地)
約5,000m²



試験栽培用地1 現況写真
(試験栽培開始前)

2. 取組にあたっての課題

町中心部（町方地区）における未利用地を活用したブルーベリー農園事業の展開・実現に向けては以下の課題がある。

- 町中心部でのブルーベリーの**栽培可否の検証が必要**
- 事業化を目指す町内事業者の**ブルーベリー栽培技術と事業計画検討の知見獲得が必要**

3. 今年度の取組項目

令和6年度事業で開始した町内事業者のブルーベリー農園の事業化検討の支援により、町中心部における未利用地の利活用を推進する。

I ブルーベリーの試験栽培と農園事業に関する知見獲得

- ・ 町内事業者が行う試験栽培による気候等の環境適性の確認とブルーベリー栽培に関する知見獲得
- ・ ワークショップを通じた商圈分析、卸先調査、周辺類似施設の調査、加工品製造委託の検討等を踏まえたブルーベリー農園の事業計画案の作成
- ・ 試験栽培結果と事業計画検討を踏まえたブルーベリー農園の事業化の判断

II 未利用地利活用に向けた事業実施の判断

- ・ 次年度以降の事業化支援の計画（アクションプラン）の策定

4. 取組経過や主な調整プロセス

6～8月 ブルーベリー農園事業者を講師に招いた試験栽培・ワークショップの実施 商圈分析や卸先ヒアリング等による投資・収支計画案の検討

- ▶ 栽培環境による生育差を確認するために**臨海部・山間部の計5個所で試験栽培を実施**。ブルーベリー農園の経営ノウハウを持つベリー・ベリー・ヤミーから講師を招聘し、試験栽培のサポートをしてもらうことで、栽培技術の知見を獲得。 ※p1-4 図1～4参照
- ▶ ワークショップにおいて、モデルケース（講師が経営する農園）と町方地区との商圈比較や卸先候補へのヒアリング結果、苗木の設置本数を踏まえ、**2つの経営スタイル（観光農園特化、観光農園+卸売）で投資計画案・収支計画案を検討**。



ポイント①

町内複数個所での試験栽培を通じて、栽培環境による生育差を確認

9～11月 ブルーベリー農園の事業計画案を策定

生育状況や資金調達等の懸念から、事業化判断の延期を決定

- ▶ ワークショップにおいて、営農型太陽光発電の先進事例調査、加工品製造委託の検討を行い、**ブルーベリー農園の事業計画案を作成**。 ※p1-4 図5～9参照
- ▶ モデルケースを参考とした**観光農園特化の収支計画は、商圈規模の小さい大槌町には適さないことが判明**。観光だけでなく、**複数販路を組み合わせた事業計画の構築が必要**であることを確認。
- ▶ **生育状況不良や事業計画の課題の顕在化により本年度に予定していた事業化の判断を1年延期することを決定した**。



ポイント②

商圈規模等から、事業実現には複数販路の組合せが必要であることを確認



ワークショップの様子

12～2月 試験栽培と事業計画検討の継続を踏まえ、事業化に向けた次年度以降のアクションプランを策定

- ▶ 町方地区未利用地での大槌復光社協同組合によるブルーベリー農園の事業化を目指すことを確認。令和8年度には**試験栽培の継続と事業計画の改善に向けた検討**を行い、令和9年度には大槌復光社による事業開始を目指すというアクションプランを策定。



ポイント③

未利用地を活用したブルーベリー農園の事業化に向けて、次年度も検討を継続することを決定

■ 町内事業者によるブルーベリー農園事業の事業化に向けたワークショップの実施体制

大槌町産業振興課が主体となり、町内事業者を対象に(株)船井総合研究所の支援のもと実施

町内事業者でブルーベリー農園の事業化を検討する大槌復光社協同組合の見聞獲得を目的に、大槌町産業振興課が主体となり、(株)船井総合研究所の支援のもとワークショップを実施。

実施主体：

- ・ 大槌町産業振興課（全体とりまとめ）

民間支援：

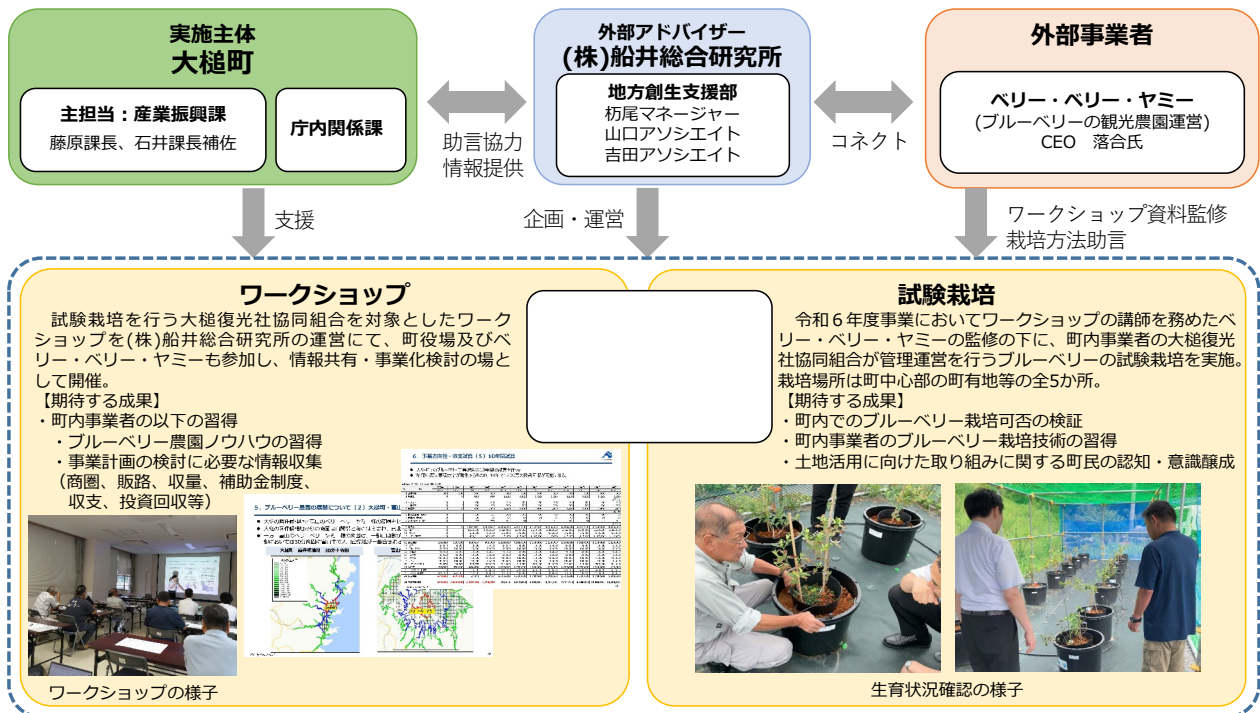
- ・ (株)船井総合研究所（企画、運営、関係者調整、資料作成等）

連携主体：

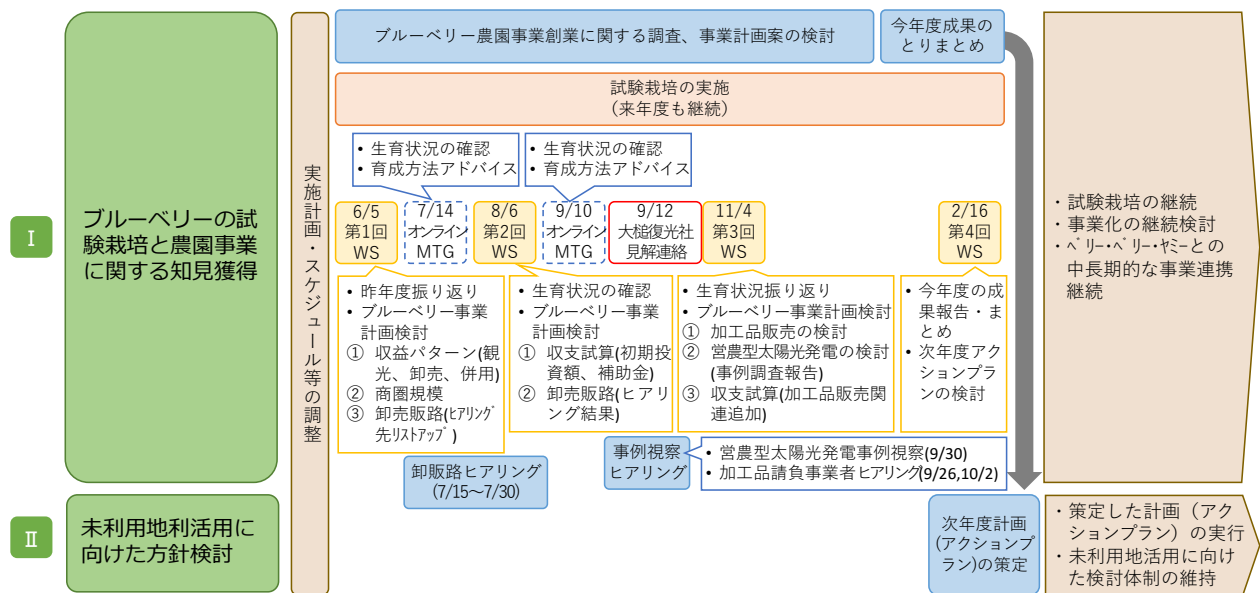
- ・ ベリー・ベリー・ヤミー（ワークショップ資料監修、栽培方法助言）

参加者：

- ・ 大槌復光社協同組合（ブルーベリー農園の事業化を検討中）



■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等

○ 栽培可能性の検討（試験栽培）



図1 試験栽培用地1の様子

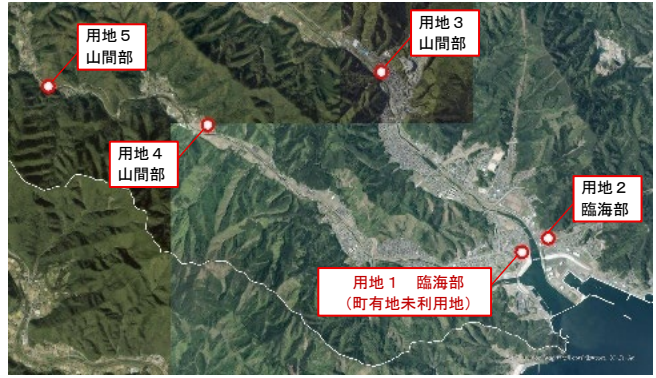


図2 試験栽培場所



図3 講師による生育状況確認の様子

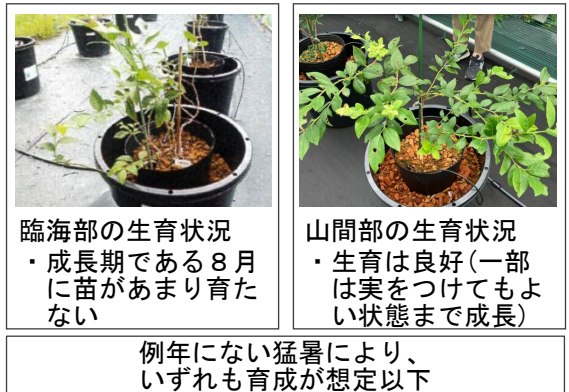


図4 試験栽培位置による生育状況の差

○ 事業展開可能性の検討（事業計画）

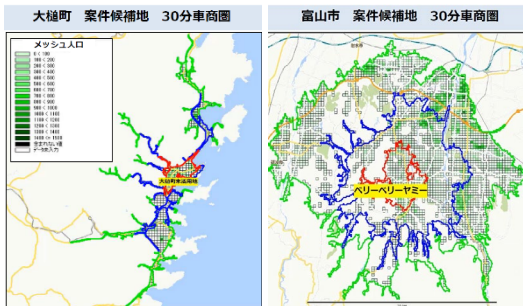


図5 モデルケースとの商圈比較



図6 周辺の卸先調査

| No | 名称 | 果実 | つみ放題料金 | 距離(車) |
|----|------------------|----------|---|-------|
| 1 | 大野ブルーベリー園 | ブルーベリー | 大人：800円 小学生以下：500円 | 29分 |
| 2 | 東ファーム | ブルーベリー | 小学生以上：300円 幼児：無料 | 40分 |
| 3 | だいわブルーベリー園 | ブルーベリー | 大人：1,400円 小学生以下：1,200円 3歳以下：無料 | 78分 |
| 4 | 佐野上ブルーベリー園 | ブルーベリー | 中学生以上：400円 小学生：100円 | 46分 |
| 5 | だいわフルーツパーク | ブルーベリー | 中学生以上：1,700円 小学生以下：1,400円 3歳以下：無料 | 50分 |
| 6 | 門前おでらブルーベリー園 | ブルーベリー | 卸や直販の情報のみ 冷凍800g：4,000円 | 41分 |
| 7 | 阿部りんご園 | リンゴ | - | 47分 |
| 8 | 松岡園 | リンゴ | - | 43分 |
| 9 | いちごパーク いせがらびファーム | イチゴ | 中学生以上：2,500円 小学生：1,600円 3歳以下：1,100円 | 53分 |
| 10 | 株式会社 リアスターファーム | イチゴ | 中学生以上：2,180円 | 46分 |
| 11 | 釜石あまほろワイナード | ブドウ(ワイン) | ワインツアー 3,500円 | 28分 |

図8 周辺の類似施設の調査

■ブルーベリー農園 500本ケースにおける投資計画

| No. | 概要 | ケース1 |
|-------|-----------|--------|
| 1 | ブルーベリー本数 | 500本 |
| ■必要面積 | | |
| 2 | 1本あたり必要面積 | 5㎡ |
| 3 | 圃場面積 | 2,500㎡ |
| 4 | 必要駐車台数 | 15台 |
| 5 | 1台あたり面積 | 20㎡ |
| 6 | 駐車場面積 | 300㎡ |
| 7 | 事務所 カフェ | 100㎡ |
| 8 | 栽培・育成スペース | 200㎡ |
| 合計 | | 3,100㎡ |

| | | |
|------------|-----------|------------|
| ■苗にかかる投資金額 | | |
| 9 | ブルーベリー苗本数 | 600本 |
| 10 | 1本あたり単価 | 3,000円 |
| 投資金額 | | 1,800,000円 |

| | | |
|-------------------------|------------|------------|
| ■土地整備（整地・防草シート・防鳥ネット整備） | | |
| 11 | 整地 1㎡あたり単価 | 1,500円 |
| 12 | 整地 面積 | 3,100㎡ |
| 投資金額 | | 4,650,000円 |

| | | |
|--------------|-------------|------------|
| ■事務所・カフェ整備費用 | | |
| 13 | 事務所 1㎡あたり単価 | 50,000円 |
| 14 | 事務所面積 | 100㎡ |
| 投資金額 | | 5,000,000円 |

| | | |
|-----------|----------|------------|
| ■自動灌水システム | | |
| 15 | 自動灌水システム | 5,000,000円 |

図7 事業収支計画



図9 営農型太陽光発電先進事例視察

5. 今年度の取組成果

成果1 町内5個所で実施した同一育成方法による試験栽培にて、町内事業者の基本的なブルーベリー栽培技術の知見獲得と、町方地区未利用地における育成方法の課題把握

- ▶ 試験栽培での講師による水やり・剪定方法等の指導を通じ、町内事業者が基本的なブルーベリー栽培技術の知見を獲得。
- ▶ 町内5個所で同一の育成方法による試験栽培を行い、山間部に比べて町方地区未利用地を含む臨海部では潮風や気温の影響から生育が遅れることが判明。

成果2 ブルーベリー農園の事業化に向けた事業計画書の作成と事業実現に向けた課題の明確化

- ▶ 講師のブルーベリー農園ビジネスモデルを参考に、観光農園による収益化に向けた事業計画案を検討した結果、商圈規模等の違いから観光農園単独での事業計画では投資回収に時間を要することが判明。卸先や加工品製造委託事業者へヒアリングによる販路調査を実施。

成果3 未利用地を活用したブルーベリー農園の実現に向けたアクションプランの策定

- ▶ 試験栽培結果や事業計画検討を踏まえ、試験栽培と事業化判断の1年延長を決定。町方地区の未利用地での事業実現に向けた町と町内事業者による次年度以降のアクションプランを策定。

6. 今後の方向性

栽培環境に合った育成方法の確立のため、町内事業者によるブルーベリーの試験栽培を継続

- ・ 町方地区の未利用地の栽培環境に合った育成方法の確立のため、試験栽培を継続。具体的には臨海部でも良好な生育となるよう、過湿対策や肥料濃度を考慮した育成方法を検証する。

直売・加工等、観光以外の販路を模索し、複数の販路を組み合わせた事業計画を策定

- ・ 投資回収期間の短縮や観光集客の不安定さの克服のため、収益計画の改善策を検討。具体的には直売、加工品、ふるさと納税返礼品等、複数販路の組み合わせによる安定した事業計画を検討。

中長期スケジュール・フロー図等

| 年度 | ゴール | 主力検討内容 |
|-------|--------------------------------|---|
| 令和8年度 | ①ブルーベリーの試験栽培の継続 ②観光以外の販路の確保 | ①令和7年度の試験栽培結果を踏まえ、特に町方地区未利用地におけるブルーベリーの育成が順調になるように、複数の条件設定の下、試験栽培を継続する ②観光のみならず、直売、加工、ふるさと納税などの複数の販路を組み合わせた事業計画を策定する |
| 令和9年度 | ①ブルーベリーの試験栽培の完了と農園事業展開に向けた準備 | ・ブルーベリーの試験栽培の完了と農園事業展開に向けた準備 ・町内向けブルーベリーイベントの開催 ・町内での他事業（特に観光事業）との連携 |

7. 取組主体・関係者の声

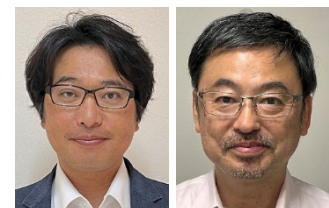
これまでの状況や今回の取り組みにおける工夫や苦労など

- ・ 大槌町の支援が始まり5年が経過しました。今年度の試験栽培結果には想定外の部分もございましたが、業務終盤まで追加調査を実施し新たに太陽光発電事業や畜産業との連携による新事業の可能性も発見されました。（民間支援：(株)船井総合研究所）

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・ 本事業の実施にあたり多大なるご助力を賜り、深く感謝申し上げます。事業全体を俯瞰した専門的なアドバイスをいただいたことは、本町の取組を具体化させる推進力となりました。本事業は令和7年度をもって終了いたしますが、支援を通じて得た知見を活かし、ブルーベリー栽培の継続や新事業の展開など、町内の事業者を支える体制を今後も維持・強化してまいります。（大槌町産業振興課 石井）

大槌町 産業振興課



藤原英志
課長

石井満
課長補佐